

消化器内科

《概要》

2007年度の大阪市立大学消化器内科医局による医師一斉引き揚げ以降、当院では「地域の中核病院でありながら消化器内科が機能していない」という危機的状況が続いてきました。「この状況をなんとか打開したい」という病院指導部の切なる願いを受け、2010年1月18日に、常勤2名というささやかな陣容で「消化器内科」が発足、再建の歩みを開始しましたが、パート医に多くを依存するという不安定な人員配置での運営が現在も続いています。

再建へ向けた明るい変化としては、機能停止期間に失った消化器内視鏡学会施設認定を2010年12月に再取得、若い医師の専門医資格取得の条件を整える一方、臨床面では、消化管疾患を中心に積極的な緊急検査や入院受け入れを再開しました。再建の動きは、少しずつ、患者さんや周辺医療施設の先生方へも認知され始め、紹介患者数や検査件数は右肩上がりに増加してきています。また、肝疾患については、近畿大学医局からの応援を得て、外来でのインターフェロン投与などを開始しています。ただ、上記のような事情で、残念ながら安定して入院加療を受け入れられる体制は未だつくりえないのが現状です。

時間外緊急対応や安定した入院受け入れのためには複数の若い常勤医の恒常的な確保が喫緊の課題です。あらゆるつてを求めて人材確保の努力を続けていますが、この地域の慢性的医師不足は、もはや一個人や一病院の努力だけでは到底解決しえないことを実感しています。一方、人材を求めて若い医師たちと会う中で、憂うべき医療崩壊の現状の中にも、使命感を持つ若手医師が限られた数ではあれちゃんと育ってきている手ごたえも感じます。少しでも早く、消化器内科としてのまっとうな機能を取り戻すべく、こうした人材の確保・育成に向けて今後も努力を続けてゆく所存です。

《実績》 2010.4.1～2011.3.31

上部消化管内視鏡検査件数	2,207 件
下部消化管内視鏡検査件数	1,099 件
ERCP 件数	62 件
内視鏡治療件数	242 件
緊急内視鏡検査件数	152 件